

第4回文京区アカデミー推進協議会分科会(文化芸術分野) 議事要旨

日 時	平成27年8月12日(水) 18:30~20:30
会 場	文京シビックセンター3階大ホール会議室1
委 員	会 長 水越 伸 (東京大学教授) 委 員 高澤 芳郎 (シエナ・ウインド・オーケストラ 事務局長) 委 員 牧野 恒良 (公益社団法人宝生会 事務局長) 委 員 上田 武司 (文京区商店街連合会 副会長) 委 員 春田 孝二郎 (文京区高齢者クラブ連合会 副会長) 委 員 平井 宥慶 (文京区民生委員・児童委員協議会 会長) 委 員 天野 亨 (文京区心身障害者福祉団体連合会 理事) 委 員 三浦 徹 (中学校PTA連合会 理事) 委 員 柳澤 愈 (文京アカデミア学習推進関係委員会、文京区アカデミア 講座企画委員会 委員長) 委 員 塩見 美奈子 (文京区生涯学習サークル連絡会 会長) 委 員 松井 良泰 (公益財団法人文京アカデミー 事務局長)
欠 席	委 員 鈴木 秀昭 (東京商工会議所文京支部 事務局長)
事務局	山崎 克己(アカデミー推進部アカデミー推進課長) 矢部 裕二(アカデミー推進部アカデミー推進課文化事業係長) 川口 明代(アカデミー推進部アカデミー推進課文化資源担当室長) 支援事業者 株式会社創建 大谷、氏原
資 料	「次第」及び「第4回分科会の進め方について」 施策体系(案) 平成26年度取組状況結果(文化芸術分野)

議 事

1. 開 会

2. 議題

(1)新しい体系(案)についてについて

事務局より、「施策体系(案)」について説明を行った。

天野委員 1(3)で情報提供と情報発信という言葉の違いは何か。また、誰が、誰に向けてというところを明確にする必要があるのではないか。

事務局 情報提供は、区から、イベントなどの情報を、という意味で、情報発信は、外に向けて、文京区のことをPRしていくようなイメージになると考えられる。

天野委員 文京区のことを発信するというのは、大きな3番にあたるのではないかと。

高澤委員 発信は、区民などが自主的に行っている感じがする。提供というと、義務的な印象がある言葉になる。

柳澤委員 ここは、前は提供だけだったところに、発信を追加したところかと。

事務局 ここは、前の計画の文言を踏襲したところである。

天野委員 文京区は、外への発信も積極的にこれからしていくのか。

三浦委員 区民による発信を(4)として項目を作って、区からの提供の(3)と分けてはどうか。

平井委員 右の分科会での主な意見で使われている言葉を使って、提供(多様な媒体を活用した)などをしたらわかりやすいのではないか。

水越会長 情報提供と情報発信で、2つの項目に分けてもよいが、区民の情報を、区がまとめて発信することもあるので、項目は分けずに、中の取組で整理すればよいと思う。内容としては、わかりやすく幅広い情報提供と、区民による情報発信の仕組みづくり、ということよいと思う。

事務局 区と、区民の両方が含まれるということはあるようにしていきたい。項目としての表現は長くならないよう検討したい。

高澤委員 個人が情報発信をしやすくすることと、多様な媒体を上手く使っていくことが重要である。

水越会長 内容は合意されたと思うので、表現は事務局で検討してほしい。

柳澤委員 2(1)で、「観賞・参加・創造・成果発表の機会と場所の提供・充実」というのは、単語を並べすぎの印象がある。

水越会長 一つひとつの単語には意味とは思いますが、成果発表だけは、生々しい気がする。前の計画からみると、前回の分科会、成果披露を成果発表に修正したところである。

事務局 単語が並んだ印象というのは、前回の計画から、参加・創造・成果披露といったところに、鑑賞を加えたからというものもある。

水越会長 スポーツでは、する、みる、ささえる、といった決まった言い回しがあるが、文化芸術ではいかがか。参加が創造に含まれるのではないか、など整理ができそうか。

三浦委員 鑑賞、参加、創造、というのは、それぞれ必要な単語であると思う。成果発表は、発表だけでよいかもしれない。

松井委員 参加を鑑賞につなげたい、という考えを持っているので、このあたりの単語は大切にしたい。

水越会長 提供と充実も整理してはどうか。充実の方でまとめることとして、「観賞・参加・創造・発表の機会と場所の充実」としたい。

天野委員 3の(2)と(3)で、それぞれ発掘という言葉が異なる意味で使われているのが気になる。

水越会長 発掘というと、本当に土を掘るような考古学的な意味と、再認識するような意味があるが、文化資源の発掘というと、両方の意味にとられる可能性もある。どういった言葉に置き換えることができるか。

天野委員 再発見ではどうか。

水越会長 必ずしも再びではなく、新しく見出すようなものも含まれると思う。人材は発掘でよいと思う。

三浦委員 3(2)は、人材の育成だけでもよいのではないか。

水越会長 人材育成の推進ではどうか。

三浦委員	本当に新しいものが生まれることはないので、再発見でよいかもしれない。
柳澤委員	再認識ではどうか。
水越会長	認識だけでは弱い感じもあるので、ひとまず再発見としておく。
事務局	3(2)は、人材の育成と活動の推進としてはどうか。
水越会長	育成するだけではなく、活動の場も提供するという意味も含まれる。
柳澤委員	育成と活用は、両方ともに重要である。
松井委員	人材を活用する、という言葉に気にする人がいるので、配慮が必要である。 区が、区民を人材として活用する、という上から目線にとらえられる可能性がある。
柳澤委員	活用を助けるような言い方にしたい。
塩見委員	区は、支援、応援するという表現がよいと思う。
三浦委員	後援ということで、バックアップという言葉を使ってはどうか。
事務局	活躍の推進ではどうか。
柳澤委員	人材を育成しても、活動の場がないと、意味がなくなってしまう。
水越会長	人材育成と活動支援でいかがか。
事務局	ここは、前の計画の文言を踏襲したところである。

(2) 事業につながる意見等について

各委員より、具体的な事業につながる意見等の発言があった。

高澤委員	シエナ・ウインド・オーケストラの事務局をしている立場から。芸術団体の目線になるが、ラ・フォル・ジュルネのような、数日間の大規模な音楽祭をすることは非常に効果的と考えている。当団では、長年、河口湖音楽祭に参加しているが、地元の様々な人が参加していて、メンバーとの交流も生まれている。こうしたイベントは、継続的に行うことが周知になるし、体系の3の部分にもつながっていく。イベントも、古い建物を使うなど、区内の至るところでやることができるという。
牧野委員	興味や知識を高める、という中では、参加型ワークショップを積極的にやっていきたいと考えている。宝生会としても、鑑賞だけではなく、参加や創造など様々な場面で貢献していきたい。
春田委員	まちあるきは推進してほしい。区内で同時多発的にイベントを開催するのは面白いと思うが、誰が、いつ、どこでやるのかを考えていくのは大変そうだ。
高澤委員	短期間のイベントであれば、なんとかなるのではないかな。
水越会長	多くの団体が一堂に会することは、大変かもしれないが、意義があることでもある。
平井委員	1(3)の情報については、誰にも、障害者の方にもわかるように伝えることが大切だと思うし、区外、日本中にも発信できるとよい。
三浦委員	祭りを大規模にするのは大変かもしれないが、同時に行うから観に行く、ということもあると思う。上手く横のつながりを作って、区はそれを応援する、ということができるとよい。人材の発掘については、今は、いろんな人がブログやフェイスブックで発信しているので、区の方でも、そういった人の発信内容

- を見に行くというような形で、つながりを作っていくというのもあると思う。
- 柳澤委員 地域文化インタプリターをしているが、この資格は、全国でも珍しいものである。文京区ブランドとして有名にしてはどうかと思う。また、ふるさと歴史館や真砂図書館のあたりは、文化村のようになっているので、こういった場所を整備してはどうか。また、シビックセンターも高層の区役所として特徴的な施設なので、ここ全体を使ってイベントを開催するというのも面白いのではないか。
- 天野委員 地域福祉推進委員会の障害者の会でも、お祭りのようなことをしたいという話が出ている。ユニバーサルデザインのマップなども上手く活用していければよいと思う。
- 塩見委員 まちあるきは、台東区の方でもやっている。台東区では、上野の山を使って子どもも参加できる文化のイベントをやっている。その時には、一般の家でも窓にステッカーのようなものを貼っていた。このような、手軽にイベントに参加できる工夫なども面白いと思った。文京ブランドとして、区の特徴をPRするとしたら、川なども考えられる。また、東大から根津神社までの路地なども雰囲気がある。まちを気持ちよく歩ける並木道のようなものを作ってはどうか。
- 松井委員 ラ・フォル・ジュルネについては、偏った見られ方をしないように記載しておく必要がある。区民が参加して、大規模に、継続的にということが重要だと思う。区財源以外の資金調達方法については、人材確保のためということではどうか。
- 事務局 文化資源の活用や、まちあるきの推進については、現地でガイドする人がいるなど、言葉で伝えることが大切である。
- 水越会長 地図やガイドマップは、雰囲気があるものがあると、持っていたくなるし、歩いてみようという気も高まる。蔵前周辺のマップがよい感じであった。
- 事務局 これまで開催している文化祭については、作品を出す人と、観る人が、決まってしまうているが、観に来た人が体験もできるコーナーを作るとよいのではと考えている。
- 事務局 まちあるき観光との連携については、区の内部でも情報を共有することが大切だと思う。観光写真コンクールから、魅力を再発見できるようなこともある。観光インフォメーションでは、文化芸術の情報発信と連携できる部分もある。
- 水越会長 これから計画の形にしていくが、現実的なところだけにしていくと、委員が話し合った、理想とする、根本の部分が失われてしまう可能性がある。そうならないように留意していただきたい。また、事業につながるご意見は、もっと詳しく書いた方がよいかもしれないし、本日出た意見以外にも、各委員から事業の具体的なアイデアが出る可能性もあるので、アイデアがある委員は、来週ぐらいまでに事務局まで提案をお願いしたい。

4. 閉 会

以上